

長野県上水内郡飯綱町

平成24～27年度 町内遺跡発掘調査報告書

2 0 1 7

飯綱町教育委員会

例 言

1 本書は平成24年度～27年度に実施した長野県上水内郡飯綱町における開発事業に伴う試掘調査及び工事立合の報告書である。

なお、平成25年度試掘後に本調査を実施した小玉遺跡（遺跡番号43）については別途報告書作成の準備中であり、平成26年度試掘後に本調査を実施した薬師堂遺跡（52）については既に報告書（小柳2015）を刊行しているため本報告ではふれない。

2 調査は国からの補助金交付を受けて飯綱町教育委員会が実施した。

3 本書の執筆・編集は調査担当者である小柳義男がおこなった。挿図は富岡鹿子が作成した。

4 本書に掲載した調査資料（関係図面、遺物、写真等）は、すべて飯綱町教育委員会に保管されている。

5 調査体制は次のとおりである。

調査主体者	飯綱町教育委員会		
事務局	教育長	寺島政次	
	教育次長	早川ひさ子	
生涯学習係長	藤澤哲彦（～25年3月）	宮本裕満（25年4月～26年3月）	
	土屋正康（26年4月～）		
主幹	小山丈夫	小林 貢（24年4月～25年3月）	
主査	米澤 忍（～26年3月）	大川明美（24年4月～27年9月）	
	黒岩潤也（25年4月～27年3月）		
主任	丸山裕史（27年4月～27年9月）		
主事	高橋尚太（27年10月～）		
調査担当者	いいづな歴史ふれあい館長 小柳義男		
調査参加者	横山かよ子	富岡鹿子	柳沢まち子
整理参加者	横山かよ子	富岡鹿子	柳沢まち子

6 調査をおこなうにあたり、関係する多くの皆さんにご支援、ご協力をいただいた。記してお礼を申し上げる次第である。

目 次

I 飯綱町の環境と遺跡	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
II 調査の内容及び成果	7
1 横道地区遺跡確認調査	7
2 表町遺跡（工場建設計画）	8
3 表町遺跡（水道管敷設工事）	11
4 庚申塔遺跡	11
5 表町遺跡（道路改良）	13
6 矢筒城館跡（特養増設計画）	13
7 東前坂遺跡	14
8 上赤塩地区遺跡確認調査	15
9 殿屋敷関連遺跡町田地点	16
10 矢筒城館跡（駐車場建設計画）	17

I 飯綱町の環境と遺跡

1 地理的環境

長野県上水内郡飯綱町は長野県の北部に位置し、東北部は旧下水内郡豊田村（現中野市）、南は長野市及び旧上水内郡豊野町（現長野市）、西北部は上水内郡信濃町に接する。

飯綱町からは、北信濃において北信五岳の名で親しまれている飯綱山（飯縄山）、戸隠山、黒姫山、妙高山、斑尾山を一望でき、町域の西端は飯綱山（1,917m）、北端は斑尾山（1,381m）の両火山に接している。町域には両火山の噴出物が広く厚く堆積する。

飯綱山・斑尾山や、三登山、髻山等の山々に囲まれた中央部には標高500m～600m台の平地（約50平方km）が広がる。この平地は火山噴出物によって鳥居川が堰き止められ、一帯が湖となった時期に形成されたものといわれる⁽¹⁾。この平坦面には矢筒山（566m）・鷲羅山（550m）など、いくつかの独立した円頂丘が点在している。

町域のほぼ中央部には戸隠山を源とする鳥居川が北西から南東に流下し、旧豊野町で千曲川に合流している。鳥居川を境に北部が旧三水村、南部が旧牟礼村であった。

北部には斑尾山を源とする斑尾川が流れ、芋川地区を潤して南下した斑尾川は倉井地区の南側で大きく北東に流れを変えて赤塩地区に入り、旧豊田村を経て千曲川に合流している。南部には飯綱山を源とする八蛇川や八蛇川に注ぐ滝沢川が流れる。高岡地区を東流し牟礼地区で鳥居川に合流している。

飯綱町は、日本海に面する新潟県の高田平野と長野盆地を結ぶ途上にあり、日本海（新潟県上越市）までは約50kmの距離である。古くから信濃と越後を結ぶ交通の要衝に位置しており、古代の官道である東山道から分かれ、越後国府（上越市付近）に至る東山道の支道や、江戸時代初期に整備された北国街道が通っていた。

2 歴史的環境

(1) 飯綱町の遺跡

『飯綱町遺跡詳細分布調査報告書』（飯綱町教委2016）には、211遺跡が報告されている（図1）。これを、時期別にまとめてみると次のようになる。

飯綱町の遺跡・時期別数（遺跡により時期の重複あり⁽²⁾）

時 期	旧石器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良	平 安	中 世	近 世	計
牟礼地区	8	38	8	8	6	74	34	5	181 (115遺跡)
三水地区	8	37	1	0	0	60	25	5	136 (96遺跡)
計	16	75	9	8	6	134	59	10	317 (211遺跡)
	5.0	23.7	2.8	2.5	1.9	42.3	18.6	3.2	100%

長野県立歴史館のホームページには『長野県史考古資料編遺跡地名表』（長野県史刊行会1981）をもとに集計された遺跡数が掲載されている⁽³⁾。これと比較してみると、飯綱町の遺跡の特徴が浮かんでくる。

長野県の遺跡・時期別数（時期の重複あり）

旧石器	縄 文	弥 生	古 墳	奈良平安	中・近世	計
330	7970	2099	4415	3206	約1000	19020
1.7	41.9	11.0	23.2	16.9	5.3	100%

飯綱町の遺跡・時期別数の特徴

- ① 旧石器時代の遺跡数の割合が比較的高い（野尻湖周辺に足跡を残した旧石器時代人の活動範囲であったか）。
- ② 縄文時代の遺跡数は多いが、長野県全体の傾向と比較すると半分ほどの割合である。
- ③ 弥生・古墳・(奈良)の遺跡数はすくない。長野県全体の傾向と比較しても極わずかである。
- ④ 平安時代の遺跡数が非常に多い。長野県全体の傾向と比較しても顕著である。
- ⑤ 中世の遺跡も多く、長野県全体の傾向と比較しても高い割合である。

(2) 主要遺跡の概観 (図1)

時代別に主要な遺跡を概観しておく。旧石器時代は表採資料が主で十分様相がつかめないが、飯綱山麓のだづま原遺跡(18)、宮浦遺跡(2)などで尖頭器等が出土している。西樽川遺跡(3)では台形石器が、宮浦遺跡からは上部野尻湖層Ⅱ最上部の漸移帯(モヤ)からスクレイパーが出土している。町内最古の資料である。

縄文時代草創期は、だづま原遺跡から尖頭器、スクレイパーなどが、古町下向山遺跡(4)から有茎尖頭器が出土しており、原遺跡(124)からは、多縄文系の土器群などが表採されている。

早期の遺跡も小規模であるが高坂の丸山遺跡(31)から出土した絡状体圧痕文土器は、社会科の資料集に掲載されるなど広く知られている。宮浦遺跡では、一列に並ぶ大規模な落とし穴状遺構が検出されている。

前期の遺跡は丸山遺跡、原遺跡、伊豆ヶ入遺跡(200)などがある。丸山遺跡からは関山期の住居跡1棟と諸磯期の土坑18基が検出されている。17号土坑からは、ほぼ完形の大小2個体の有孔浅鉢形土器が出土した。伊豆ヶ入遺跡(芋川遺跡と報告されていることもあり)は古くから知られた遺跡で藤森栄一や神田五六によって紹介されている。小野遺跡(198)からも有尾期の住居跡が1棟検出されている。

中期の遺跡には上赤塩遺跡(161)、東柏原遺跡(206)、古城遺跡(123)と規模の大きな遺跡がある。上赤塩遺跡は中央部に広場をもつと思われる弧状の集落遺跡で、中期前葉から中葉の13棟の住居跡が検出されている。小玉遺跡(43)からは中期後葉の住居跡1棟などが検出されている。

後期の遺跡は明専寺遺跡(15)から2棟の住居跡や土坑が、八蛇川を挟んだ対岸の茶磨山(茶白山)遺跡(26)からも大量の土器・石器が出土している。小玉遺跡からは後期初頭から中葉に至る土器群が多数出土している。特に「石神類型」の土器群は注目される。小野遺跡からも敷石住居跡1棟などが検出されている。

晩期の遺跡は茶磨山遺跡、橋詰遺跡(旧栄町遺跡を含む)(63)などがある。

弥生時代・古墳時代の遺跡は希薄であるが、長野盆地を見下ろす平出地区の南部に古墳がある。庚申塚古墳(110)は全長約52mの前方後円墳である。墳丘裾部の調査で葺石状の石列と埴輪が検出されている。埴輪は朝顔形埴輪と円筒埴輪があり、円筒埴輪には類例の少ない格子目叩きが施されており注目される。

奈良時代の遺跡も希薄である。平安時代になると遺跡数は急増するが、規模の大きな遺跡は確認されていない。丸山遺跡からは3棟の堅穴住居跡が、前田遺跡(53)からは4棟の堅穴住居跡と掘立柱建物跡等が検出されている。このほか、平出地区を中心に須恵器の窯跡が集中しており、前高山(82)、上ノ山(86)、家岸(88)の各窯跡が調査されている。平出の西浦北遺跡(西浦遺跡)(91)からは粘土採掘坑とみられる土坑群も検出されている。製品の搬出には牟礼地区を通過していたと考えられている東山道の支道も利用されたものと思われる。

平安時代末から鎌倉時代にかけて、町内は芋川荘(芋川地区)と太田荘に属す区域に分かれたようである。太田荘域には島津権六郎が居城したと伝承される矢筒城館跡(60)がある。麓に城館跡があり、南側の表町遺跡(62)は城下であったと伝承されてきた。数次にわたる矢筒城館跡と表町遺跡の調査によって、幅9~12m、深さ3.5mにおよぶ内堀の一部や南北350mにわたる15世紀後半から16世紀前半の集落跡が確認された。

芋川荘域には、芋川氏館跡(144)、若宮城跡(201)、鼻見城跡(193)、小野遺跡などがある。

芋川氏館跡を中心とする数次の調査で、館の主郭は8m幅の堀に囲まれた一辺60mの方形区画であったこと、堀底には変化に富んだ障壁土坑からなる障子堀が設けられていたこと、芋川氏の会津移住後にも、堀に添って柵列が設置されてことなど重要な所見が得られている。

小野遺跡からは12世紀後半~13世紀前半に始まる建物群が検出されており、14世紀代の空白期をはさんで15世紀前半まで継続する。芋川荘の現地管理者である在地領主層の館の可能性が高いことが指摘されている。

飯綱町遺跡分布

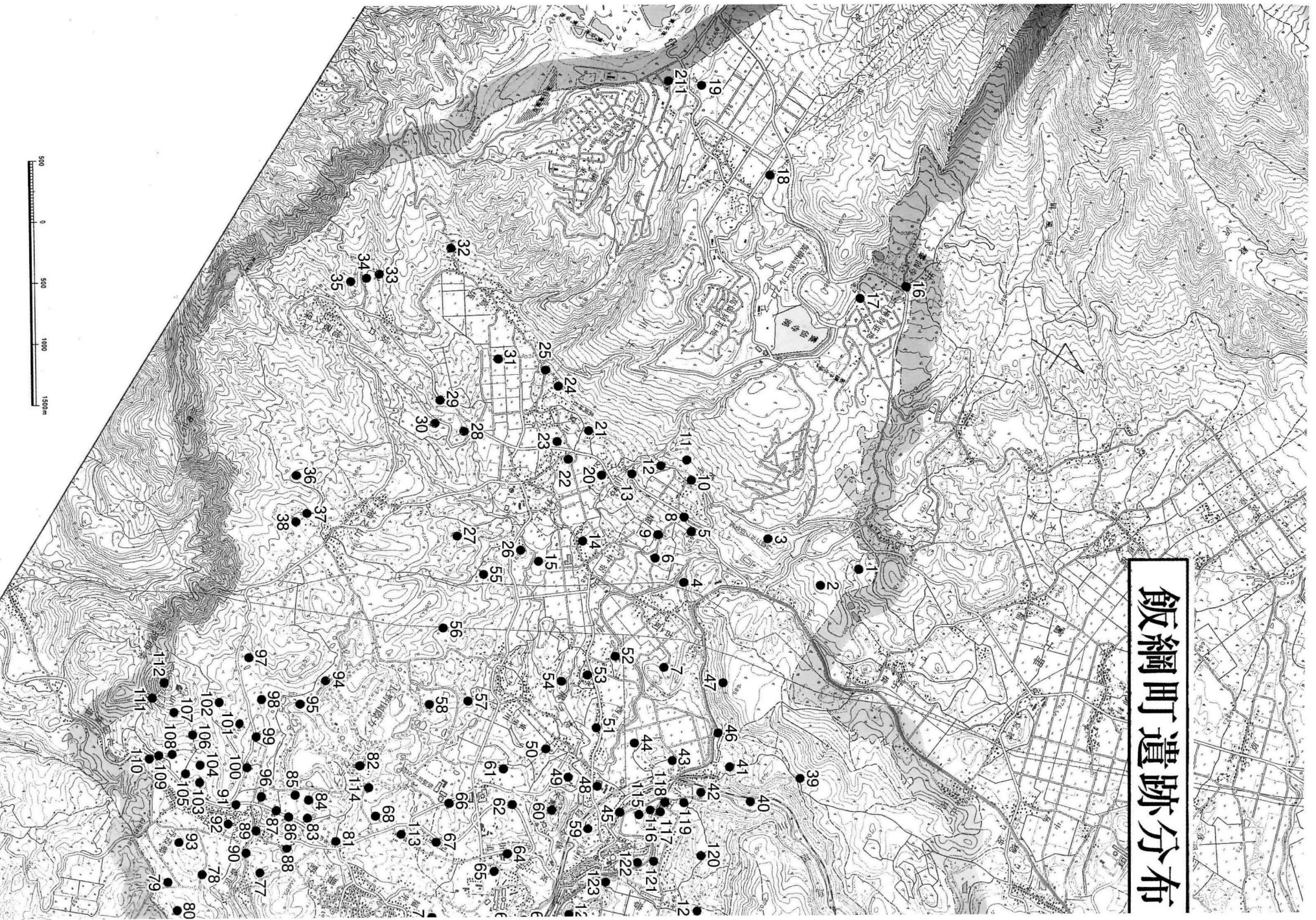
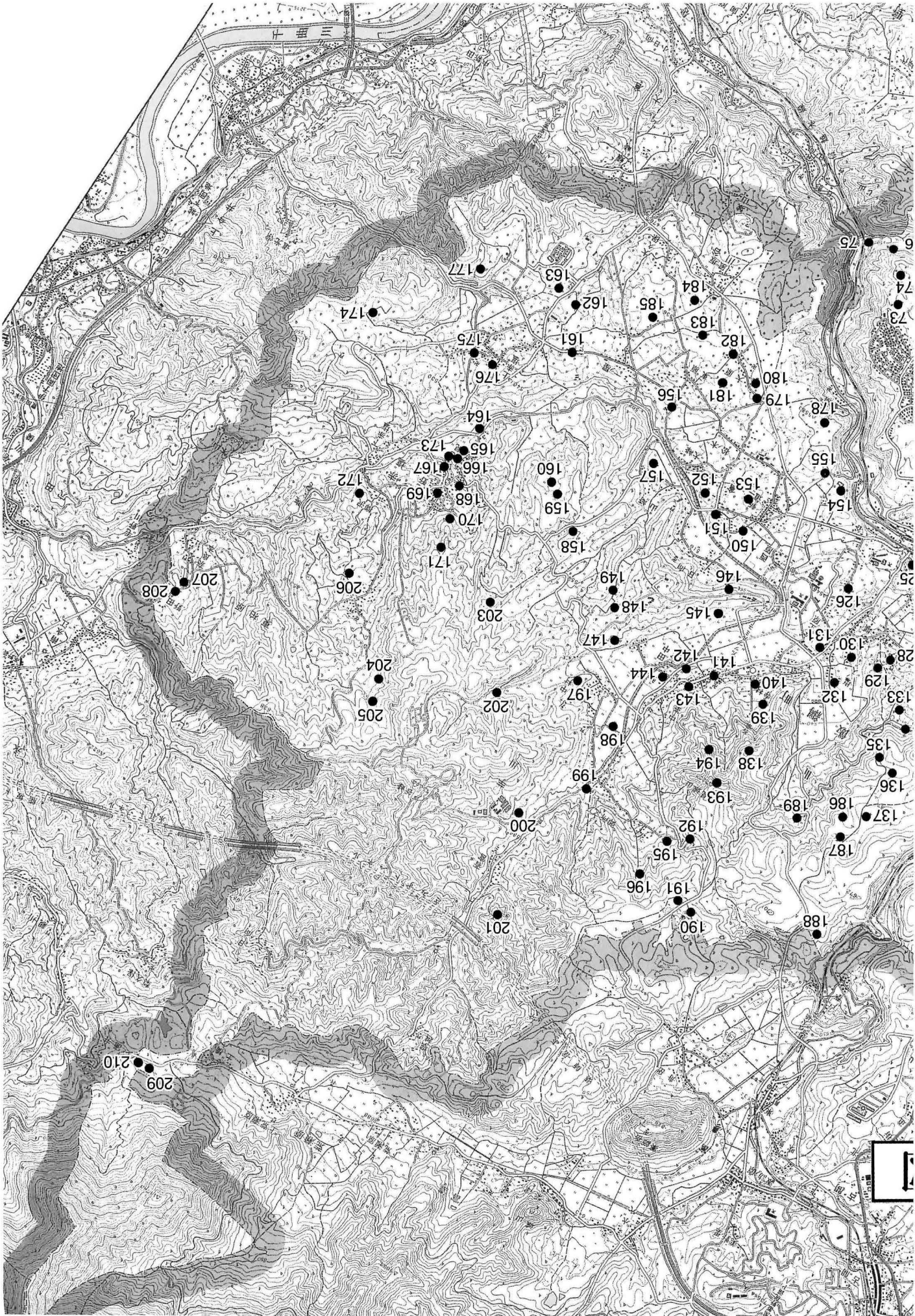


図 1 飯綱町遺跡分布図（『飯綱町遺跡詳細分布図調査報告書』より作成）



注

- 1) その時期は、長野県埋蔵文化財センターの調査では約2～4万年前頃と考えられている（中野2009）。
- 2) 『飯綱町遺跡詳細分布調査報告書』より作成。なお同書で「四ッ屋一里塚（遺跡番号113）」の時期を中世と記録してあるが、近世の誤りである。また近世遺跡は窯跡、経塚、一里塚、境塚など限られた遺跡を登録している。
- 3) 長野県立歴史館のホームページには、古墳時代の遺跡数884、古墳3531基と分けて記載されているが、本表では一括している。中・近世（約1000）は1000として集計している。

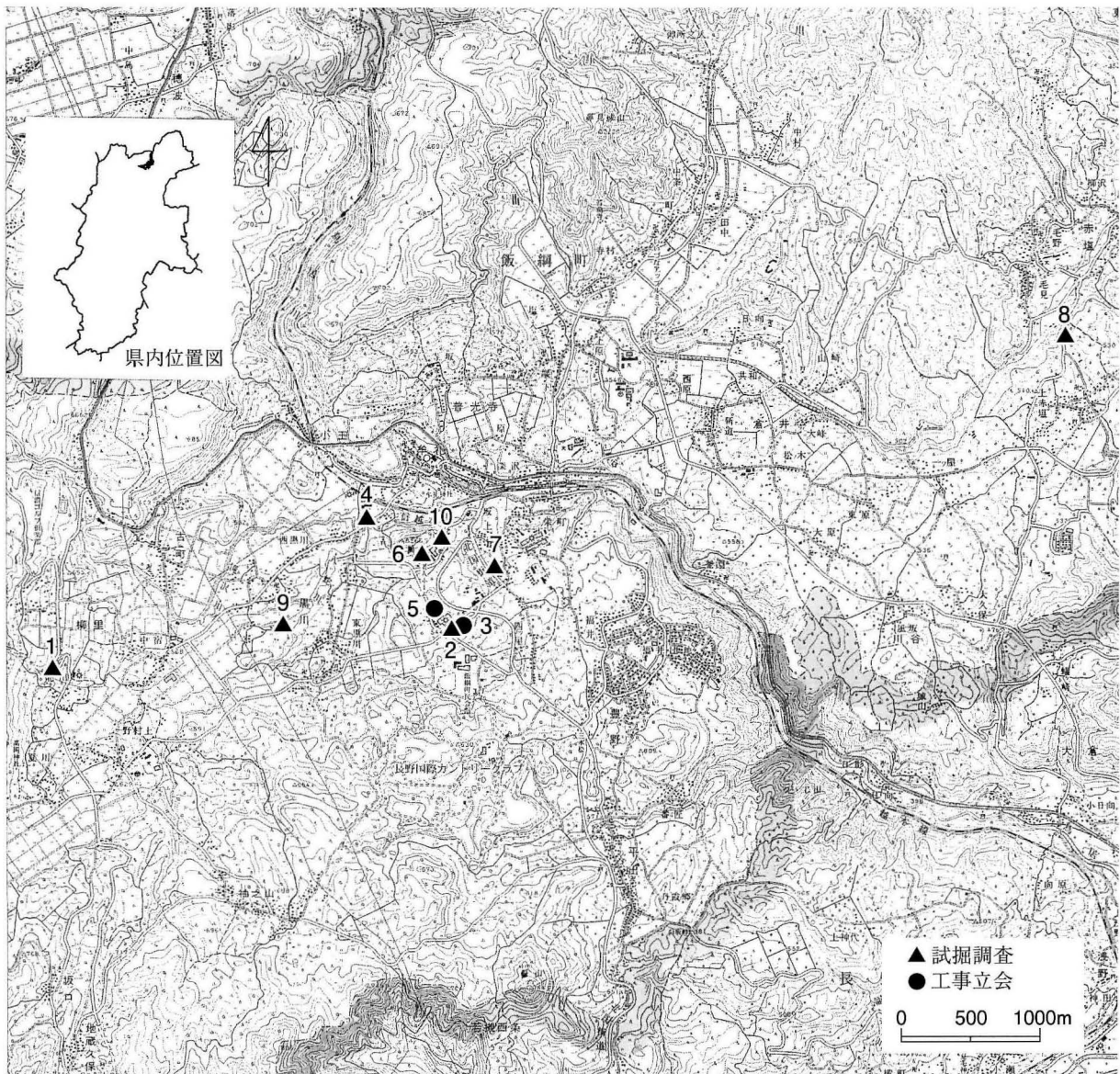


図2 調査地点（飯綱町役場平成25年1月作成 1：25,000地形図使用）

Ⅱ 調査の内容及び成果

1 横道地区遺跡確認調査（図2-1）

A 概要

所在地 A地点 飯網町大字川上2248-3
B地点 飯網町大字柳里713
C地点 飯網町大字柳里631-1・2

原因 県道長野信濃線改良工事

調査方法 確認調査

調査面積 25㎡

調査日 平成24年11月27日

出土遺物・遺構 なし

B 調査の経緯と遺跡の環境

県道長野信濃線改良工事の路線予定地内には、文化財保護法に定める「周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）」は確認されていないが、近接して「横道遺跡（13）」が存在し、地権者より予定地内（A地点）で出土物取得（縄文土器底部）の情報提供があった。予定地内に未周知の遺跡が存在することも考えられたため、路線予定地内の地形の異なる3地点に試掘坑（トレンチ）を掘り、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の有無を確認するため土地所有者の了解を得て調査を実施した。

いずれも任意の地点であり、座標の測定は実施していない（以下本報告遺跡に共通）。

調査地は飯網山麓の東、標高630～640mほどの傾斜地に位置する。周辺は飯網山の火山麓で調査地西に横道遺跡が近接し、やや離れて南東に北屋敷遺跡（20）がある

C 調査結果

(1) 調査の概要（図3）

A地点 地権者より（耕作者が取得した）出土物の情報提供があった場所で、付近にはホッケドウ（法華堂？）の地名もあるとのことを留意して調査した。ソブ川の南側に位置しておりソブ川に向かって傾斜しているが端部は崖状をなしている。丘陵部は南東方向へ緩斜面となっていて、畑地・果樹園として利用されている。

B地点 ソブ川の北に位置する。ソブ川に向かっての傾斜はかなり急であるが、頂部に近くなるにつれ傾斜もゆるくなる。畑地・果樹園として利用されている。

C地点 東方向への緩斜面で畑地として利用されている。北西隅には湧水もみられること、および予定地内では最も平坦な地点であることから調査地に選定した。

各地点の試掘は小型重機によった。遺物の出土状況を確認しながら順次掘り下げた。Ⅲ層（黄色粘質土層）表面は、ていねいに廃土し遺構の有無を精査した。精査後、さらにⅢ層を掘り下げ遺物の確認につとめた。

(2) 調査結果

A地点（写真2） 長さ9m、幅1mの範囲を試掘した。土層は、Ⅰ層表土（耕作土）（10cm）、Ⅱ層褐色土、（20cm）、Ⅳ層黄色粘質土層（パミス含むローム層）（20cm以上）となっている。

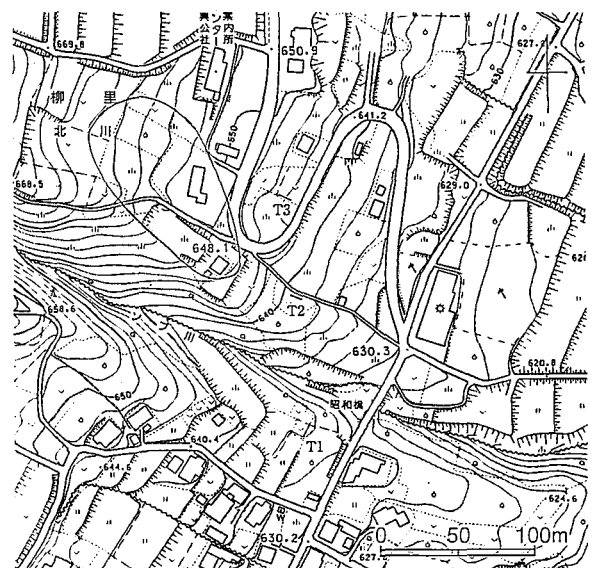


図3 横道地区遺跡確認調査(横道遺跡の範囲と調査地)

試掘による遺物および遺構の確認はできなかった。また、周辺の表面採集にもつとめたが、遺物は採集できなかった。

耕作者が2011年に拾った遺物は、10cmほどの縄文土器底部である。表面がかなり磨滅しており、部分的に縄文が施文されているのを確認できる状態である。今回、出土地点を中心に試掘したが遺物、遺構を確認できなかった。耕作者が拾った縄文土器片は西側上部地点等から、なんらかの経緯で運ばれたものと思われる。

B地点（写真3）長さ7m、幅1mの範囲を試掘した。土層は、I層表土（耕作土）（20cm）、III層黄褐色土層（20cm）、IV層黄色粘質土層（パミスを含むローム層）（25cm以上）となっている。

試掘による遺物および遺構の確認はできなかった。また、周辺の表面採集にもつとめたが、遺物は採集できなかった。

C地点（写真1）長さ8m、幅1m（部分的に2mに拡張）の範囲を試掘した。土層は、I層表土（耕作土）（25cm）、III層黄褐色土（風化した小石混じり）（14cm）、IV層黄色粘土（パミスを含むローム層）（20cm以上）となっている。

表土下に、柱穴状の落ち込みがあったため周辺を拡張したが、遺構と確認するに至らなかった。試掘による遺物の確認はできなかった。また、周辺の表面採集にもつとめたが、遺物は採集できなかった。

これらの結果から県道長野信濃線改良工事の路線予定地内には、新たな埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断し調査を終了した。

2 表町遺跡（工場建設計画）（図2-2）

A 概要

所在地 飯綱町大字牟礼字山ノ神2001-1ほか
原因 工場建設計画
調査方法 試掘調査
調査面積 165㎡
調査日 平成25年4月3日～10日
出土遺物 内耳土器1 遺構 土坑2

B 調査の経緯と遺跡の環境（図4・写真4）

試掘地の一部は、文化財保護法に定める「周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）」にあたる表町遺跡（遺跡番号62）に該当する。工場の建設が計画されたため、遺跡の範囲と規模を確認し、発掘調査の時期等を協議するため事前に試掘を実施した。

表町遺跡は、飯綱町と長野市の境にある三登山の北麓斜面に立地する。表町遺跡のすぐ北に接して、矢筒城・矢筒城館跡があり、城の表（南）に広がる集落があったのが地名の由来と伝えられる。

遺跡の中央部を斜行するように通過する長野荒瀬原線（四ツ屋バイパス）建設に伴い発掘調査が実施されている。平成17年～19年にかけて実施された調査では、伝承どおり、約500年前（戦国時代）の集落跡が確認された。集落内の井戸跡からは、鍬、臼、そりなど戦国時代の木製品が出土している。ほかにも平安時代の集落跡や縄文時代早期・前期・後期にわたる陥し穴が確認された。縄文時代後期の陥し穴は、細長い溝状で、列をなして並んでおり、中には

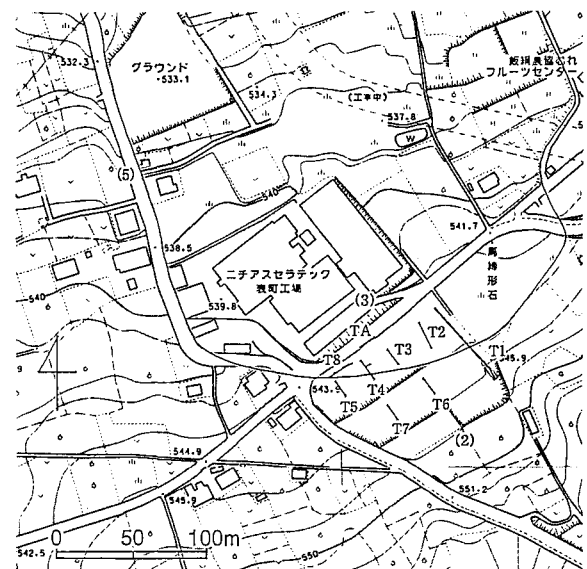


図4 表町遺跡の範囲と調査地

100m以上続いているものもあった（中野2009）。

北西部でも、同バイパスより飯網病院へつながる町道建設に伴う調査（平成21年実施）で、戦国時代の板碑や五輪塔、石臼、陶磁器等多数出土している（笹澤・原田ほか2014）。

遺跡の南端部分での発掘調査例はないが、平成16年に実施した道を挟んだ北側工場敷地内（ニチアス）の灯油タンク埋設に伴う立ち合い調査では、遺構・遺物の検出がなかった。

今回の調査地は遺跡の最南端部分にあたり、表町遺跡の広がりを確認する上でも注目される場所であった。調査地の東側部分（東西幅約20m）は傾斜を持つ平面に（南側上部削平）、他は、南北幅約30m二段の平坦面になっている。全面にわたり、削平および盛土等により造成された状況がみうけられ、旧状が大きく変化していることが予想された。

C 調査結果

(1) 調査の概要（図5）

はじめに旧地形を確認すべく東側平面にそって、南北方向のトレンチ1（以下T1と表記）を設定し調査をした。次に、道路沿いの北側平面にT2、T3、T4、T5を順次設定し調査した。

遺跡の範囲に設定した上記トレンチから遺構・遺物の検出がみられなかったが、南側の一段高い平面にもT6、T7を設定し確認につとめた。

そこでも、遺構・遺物の確認がなかったが、T5の北側に旧状を残す部分がみられたので、東西方向にT8を設定し調査した。

試掘は重機によった。遺物の出土状況や落ち込みを確認しながら順次掘り下げた。かつての工場建設に伴うと思われる大規模な掘削や埋土がみられたほか、基礎工事等の影響を受けている部分が多く、旧状を保っている範囲、および遺構・遺物の検出地点は限られていた。

基本的層序はⅠ層表土、Ⅱ層黒色土、Ⅲ層黒褐色土、（Ⅲa層黄色粘質土混じり黒褐色土層）、Ⅳ層黄色粘質土層、Ⅴ層青白色シルト層となる。工場建設時の砂礫や盛土および攪乱部分はⅠa、湿地（あるいは池）を（近代に）埋めたと思われる層（整地層）は一括してⅠb層とした。Ⅰb層は水田として利用された可能性もある。

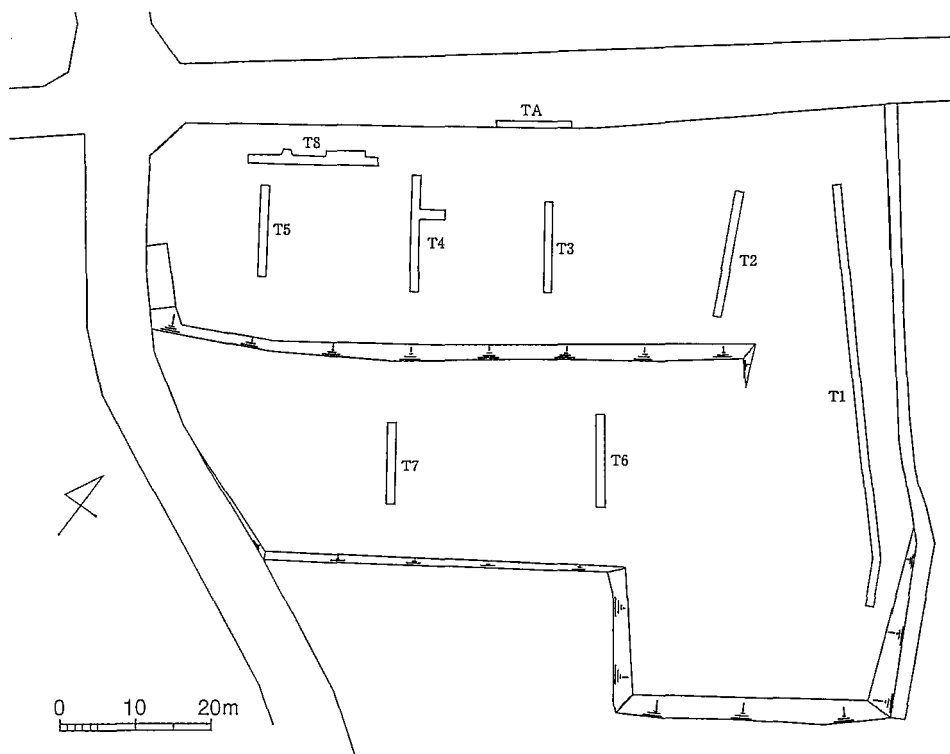


図5 表町遺跡トレンチ位置図

(2) 調査結果

T1 (写真5) 長さ56.8m、幅1mの範囲を試掘した。ほぼ全域で削平、造成がおこなわれたようで、Ia層が広範囲に厚く堆積していた(20~95cm)。Ia層の下部は、IV層になるところが多かったが、一部でIII層(10~20cm)が確認できた。この範囲は手作業で掘りさげが、遺物および遺構の確認はできなかった。

T2 長さ18.2m、幅1mの範囲を試掘した。TAと同様ほぼ全域で削平、造成がおこなわれたようで、Ia層(30~120cm)が広範囲に厚く堆積していた。Ia層の下部はV層になるところが多かったが、北側はIb層(北側)(30~40cm)となっている。遺物および遺構の確認はできなかった。

T3 (写真7) 長さ12.5m、幅1mの範囲を試掘した。Ia層(20~50cm)の下部はIV層になるところが多かったが、北側はIb層(20~70cm)になる。遺物および遺構の確認はできなかった。

T4-1 長さ16.6m、幅1mの範囲を試掘した。Ia層(20~30cm)の下部は、IV層になるが、北側はIb層(40~80cm)になる。試掘による遺物および遺構の確認はできなかった。

T4-2 Ib層の広がりを確認するために、長さ3.6m、幅1mの範囲を試掘した。Ia層(20~30cm)の下部には広がるIb層(0~40cm)はトレンチの北隅付近で見えなくなっている。Ib層の下部はIV層となっている。遺物および遺構の確認はできなかった。

T5 (写真6) 長さ13.3m、幅1mの範囲を試掘した。Ia層(10~20cm)の下部は、III層(10~25cm)、あるいはIV層になる。III層は北側に向かって残っている。旧状を保っている可能性が強い部分のため注意して調査したが、遺物および遺構の確認はできなかった。

T6 遺跡指定地に接しているため、T7とともに試掘した。長さ13.6m、幅1mの範囲を試掘した。Ia層(80~85cm)が広範囲に厚く広がっている。下部はIV層、トレンチの北側ではIb層(20~40cm)がみられ、北側に下がるほど厚くなっている。南北に流れる自然流路が確認されたが、他の遺構・遺物は検出されなかった。

T7 長さ11.5m、幅1mの範囲を試掘した。Ia層は全体に広がっているが、比較的薄い(10~25cm)。下部は北側にIb層(10~20cm)が確認でき、南はIV層となる。遺物および遺構の確認はできなかった。

T8 長さ18.5m、幅1mの範囲を試掘したところ遺構と思われる落ち込みを確認したため周辺の一部を拡張した。Ia層(5~20cm)の下部にIII層(20~30cm)、IIIa層(5~10cm)、IV層が残る。トレンチ東端にIb層(80cm)が広がる。設定した8か所のトレンチの中では、最もよく旧状を保っていると思われる。

(3) 遺構・遺物

遺構 T8内で土坑を2か所確認した(図6)。西よりの遺構は、長さ1m、幅30cmほどの楕円形の落ち込みでIII層aを掘りこんでいる。地表下50cmほどで検出している。

東よりの遺構(写真8)は小判型の落ち込みで、長さ1.5m、幅60cmほどになると思われる。地表下55~60cmで検出している。IV層を掘りこんでいる。東端はIb層に切られているようにみうけられたが、遺構中から内耳土器

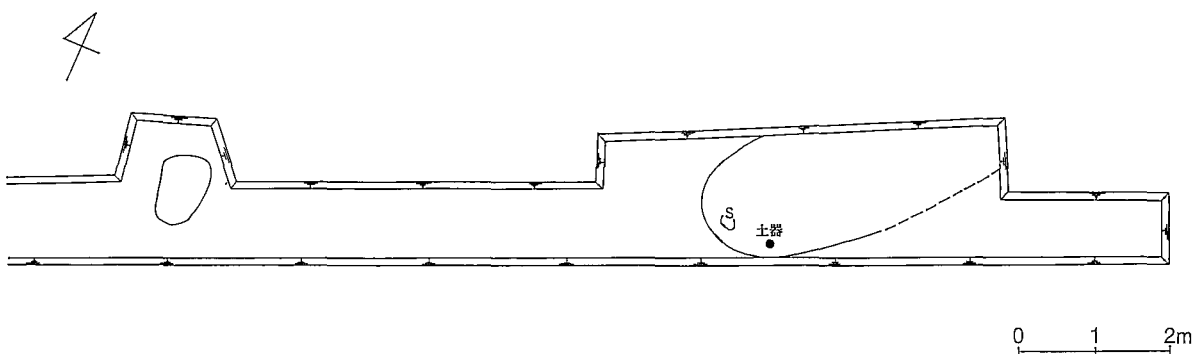


図6 表町遺跡 T8遺構平面図

片（写真9）が出土したため、それより下部は掘り下げている。

(4) まとめ

かつての工場建設に伴うと思われる大規模な掘削や埋土、基礎工事等の影響が大きいことに加え、近代に実施されたと思われる整地の影響を受けている部分が多いこともあってか遺構・遺物の検出は極わずかであった。表町遺跡の最南端部にあたる当該地点は、集落が存在したとしても非常に希薄であったと思われる。

そうした中で、T8の周辺は、中世（戦国期）の遺構が存在する可能性が高い。建設時に遺構に影響のないよう対応するか、発掘調査を実施するか事前協議をする必要があると判断し調査を終了した（後日協議の結果、施工主の理解を得てT8周辺は遺構面（地表下50cm）に影響のない工法で舗装されたことを付記する）。

3 表町遺跡（水道管敷設工事）（図2-3）

A 概要

所在地 飯網町大字牟礼字山ノ神2001-1ほか
原因 水道管敷設工事
調査方法 工事立合
調査面積 8㎡
調査日 平成26年6月4日
出土遺物・遺構 なし

B 調査の経緯と遺跡の環境（図4・5・写真10）

上記2の用地に、水道管を引き込むための立会調査を実施した。町道沿いの水路（U字溝）部分を長さ10m、幅0.8mにわたり掘削した（掘削位置は図5のTA）。

C 調査結果

水路（U字溝）の下には、水抜き用の穴あきパイプが敷設されており地表下60cmまで掘り込まれていた。その下には黒褐色土層が広がっているようであった。工事は地表下65cmまでの掘削で終了した。遺物や遺構は検出できなかった。

4 庚申塔遺跡（図2-4）

A 概要

所在地 飯網町大字黒川字庚申塔1584-1
原因 牟礼東小学校プール建設
調査方法 試掘調査・工事立合
調査面積 19㎡
調査日 試掘：平成25年5月16日
工事立合：平成25年7月30日
出土遺物 須恵器ほか 遺構 なし

B 調査の経緯と遺跡の環境（図7）

試掘地の一部は、文化財保護法に定める「周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）」にあたる庚申塔遺跡（遺跡番号48）に該当する。牟礼東小学校のプール建設（改修）が計画されたため、遺跡の範囲と規模を確認し、発掘調査の時期等を協議するため事前に試掘（以下1次調査）を実施した。試掘終了後、プールからの排水路設置工事に伴う工事立合（以下2次

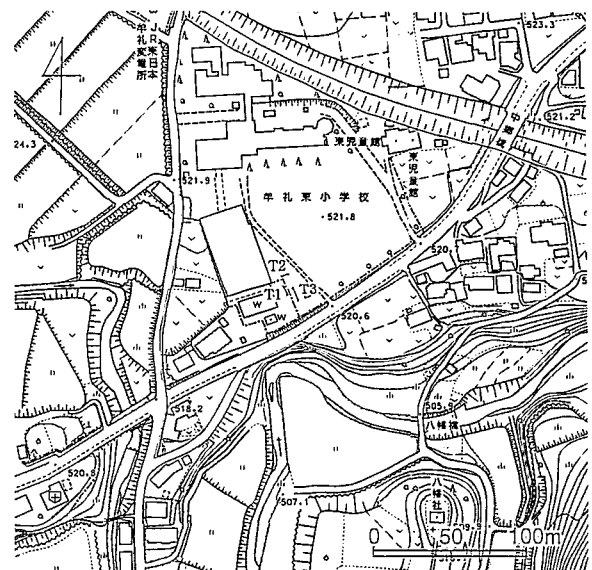


図7 庚申塔遺跡の範囲と調査地

調査)を実施した。

庚申塔遺跡は、飯綱町大字黒川と大字牟礼、大字小玉の境付近に立地する牟礼東小学校の敷地を含む一帯を範囲とする。『牟礼村遺跡詳細分布調査報告書』には弥生時代、平安時代、近世、近代の遺物の出土を記している。『中郷村史』には「中学新築の折、便所跡から弥生時代後期及土師器が出て居る」と記されている。古くから知られた遺跡であるが、実態が十分つかめていない遺跡でもある。庚申塔遺跡のすぐ東に接して裏町遺跡(59)があり、八蛇川の対岸には八幡社遺跡(49)、矢筒城館跡がある。

今回の調査地は遺跡の南端部分にあたり、庚申塔遺跡の広がりを確認する上でも注目される部分であった。

C 調査結果

(1) 調査の概要(図8)

① 1次調査(写真11)

プール敷地にそって拡張される部分に南北方向のトレンチ1(T1)を設定(長さ6m、幅1m)した。重機によって、遺物の出土状況や落ち込みを確認しながら順次掘り下げた。

基本的層序は、I層表土(整地層)、II層黒色土、III層黄褐色土、IV層黄色粘質土層となっている。

② 2次調査

プールからの排水路(長さ約94m、幅80cm、深さ60cm)掘削に伴う工事立合。1次調査地点より北よりに、ほぼ東西方向に長さ5m、幅80cm(T2)の掘削と、1次調査地点の南側にほぼ南北方向の長さ10m、幅80cm(T3)の掘削に立ち合った。

基本的層序は、I層表土(整地層)、II層黒色土、III層黄褐色土、IV層黄色粘質土層となっている。

(2) 調査結果

① 1次調査

T1(写真12) I層(25~50cm)には、校庭整地に伴うと思われる10~20cm大の円礫が多数含まれる。II層(30~50cm)からは、3点の遺物が出土している(須恵器2、内耳土器1)。遺構の確認はできなかった。III層は10~20cmほどの厚さがある。遺物・遺構は確認できなかった。IV層はいわゆるローム層で、20cmほど掘り下げたが遺物・遺構は確認できなかった。

② 2次調査(写真13)

T2 I層(20~30cm)には、校庭整地に伴うと思われる10~20cm大の円礫が多数含まれる。以下II層(45~50cm)、III層(20cm)と1次調査と同じ傾向であった。IV層は掘削深度が60cmのため表面を観察しただけで掘り込まなかった。遺構は検出できなかった。須恵器1点とかわらけ1点が出土している。

T3 I層(50~60cm)には、校庭整地に伴うと思われる10~20cm大の円礫が多数含まれる。II層40cm前後、III層20cm前後となる。IV層は掘削深度の関係で表面を観察しただけで掘り込まなかった。遺構・遺物の検出はできなかった。I層は南に向かうほど厚くなっている。旧地形が南下がりの傾斜を持っていたようである。

(3) 出土遺物

1次調査(写真14上段) 須恵器2点と内耳土器1点が出土している。須恵器は、高台付坏(坏B)と坏の小破片。ともに小破片で図示できない。坏Bは底部の中心に近い部分に糸切痕を残し外側(高台に近い部分)は回転へら削りによって整形されている。高台端部はやや外側に広がる。内耳土器は小破片で図示できない。

2次調査(写真14下段) 須恵器坏1点とかわらけ(燈明皿)1点が出土している。ともに小破片で図示できない。

(4) まとめ

1次、2次の調査から、校庭南側は礫を含む整地層が厚く

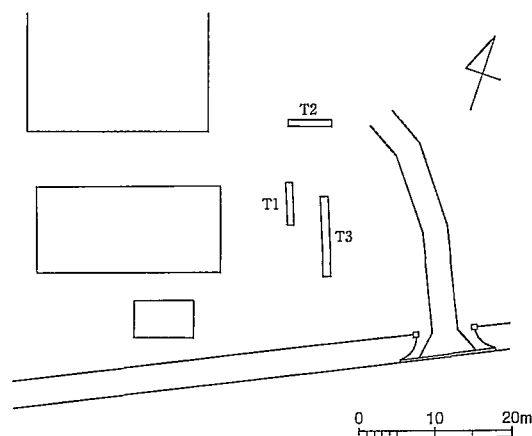


図8 庚申塔遺跡トレンチ位置図

堆積しているが、整地層の下に旧状をとどめると思われるⅡ層以下の層序が確認された。Ⅱ層中にはわずかであるが、須恵器や中世の遺物が含まれていた。また遺構は検出できなかった。このため調査地付近での工事は遺跡に大きな影響はないと判断し調査を終了した。

5 表町遺跡（道路改良）（図2-5）

A 概要

所在地 飯網町大字牟礼字表町2125-6ほか
 原因 道路改良
 調査方法 工事立合
 調査面積 128㎡
 調査日 平成25年7月11日
 出土遺物 なし 遺構 井戸状遺構1

B 調査の経緯（図9）

個人住宅進入道路となる農道の自営工事（舗装）申請があった。計画は農道部分35m（幅約4m）をアスファルト舗装（舗装の厚さは5cm、その下に20cmの採石を敷設）するというものであった。

表町遺跡の範囲（西端附近）に含まれるが、申請地の南隣接地で平成19年7月に実施した個人住宅建設に先立つ試掘調査では、包含層はみられず地表下20cmで地山に達する状況であった。それらから近代に削平をうけた地形であり包含層が存在しないと判断されていた。同一面になる隣接地の試掘結果をもとに、当該地点の試掘はせず工事立合とした。

C 調査結果（写真15）

平成19年度の試掘結果と同様でほとんどの範囲で包含層がなく、地表下20cm前後で地山（黄色粘質土層）に達した。しかし、西端の町道から10m程の範囲には黒褐色土層が薄く残っていた（5cm前後）。この黒褐色土層下に井戸状の遺構1基を確認した。

D 出土遺物・遺構（図10・写真16）

遺構は地表下25～30cmで、黄色粘質土層への黒褐色土の落ち込みとして明瞭に検出できた。ほぼ正方形で隅が丸みをおびている。大きさは縦横130cmになる。検出面より下には掘削が及ばないため、記録をとって立合を終了した。出土遺物は検出できなかった。

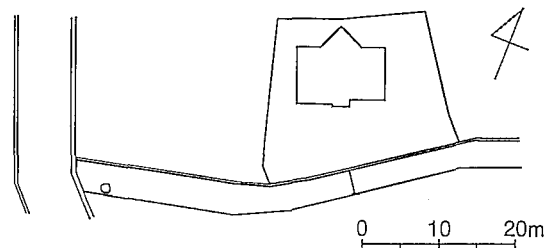


図9 表町遺跡（道路改良地点）調査地

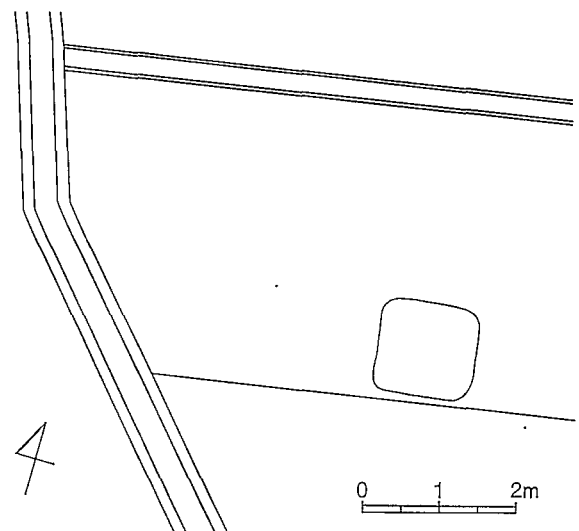


図10 表町遺跡（道路改良地点）遺構平面図

6 矢筒城館跡（特養増設計画）（図2-6）

A 概要

所在地 飯網町大字牟礼字表町2227
 原因 特養施設増築
 調査方法 試掘調査
 調査面積 9㎡
 調査日 平成25年8月14日
 出土遺物・遺構 なし

B 調査の経緯と遺跡の環境 (図11)

矢筒城館跡に立地する特別養護老人ホーム矢筒荘の増築が計画された。矢筒荘の立地している部分は、昭和54年の発掘調査(牟礼村教委1980)では、部分的にトレンチが設けられただけであった。その後の建設にあたっては事前調査が実施されていなかったこともあり、状況を把握するために試掘調査を実施した。

C 調査結果

(1) 調査の概要 (写真17)

調査地内に、並行した2本のトレンチを設けた。はじめに、現在の建物に近接した位置に長さ5.5m、幅0.7mの規模のトレンチ1 (T1) を東西方向に設定した。重機を主体として、表層より順次削平していった。周辺遺跡の調査から、じきに黄褐色～灰白色シルト層上面にいたると想定していたが、盛土層が厚く重なっていた。結局、黄褐色～灰白色シルト層は検出できず、その下層に相当すると思われる黒色シルト層にいたった。

次に、調査地南端に近い部分に長さ6.6m、幅0.8mの規模のトレンチ2 (T2) を東西方向に設定した。下部の状況はトレンチ1と同様であった。

(2) 調査結果

T1 (写真18) I層(盛土層)(75cm前後)、II層(黒色シルト層)(25～30cm)、III層(赤褐色シルト層、有機質多く含む)(15～20cm)、IV層(緑灰色シルト層)(30cm以上)

T2 I層(80～85cm)、II層(15～20cm)、III層(30cm)、IV層(12cm以上)

T1・T2とも下部の状況は類似する。表層(I層)は、盛土層である。厚さは75～85cm前後におよぶ。下部に長さ20cmほどの円礫がまとまっている部分もあった。T2ではII層の上面にブルーシートが敷かれていた。II層・III層は表町遺跡(中野2009)のVIIa層・VIIb層に相当するものと思われる。表町遺跡ではVI層(黄褐色～灰白色シルト層)上部で遺構が多く検出されたが、調査地では、盛土層下はすぐにVII層に相当する層位となっている。VI層は以前に削平されたと考えられる。

調査地は遺物包含層がすべて削平されていた。このため遺構・遺物の検出はできなかった。両トレンチの位置は、調査を予定した範囲の状況をほぼ確認できるところに設けており、北および東の調査が及んでいない範囲においても同様な状況であると推測できる。よって本発掘調査の必要はないと判断し試掘調査を終了した。

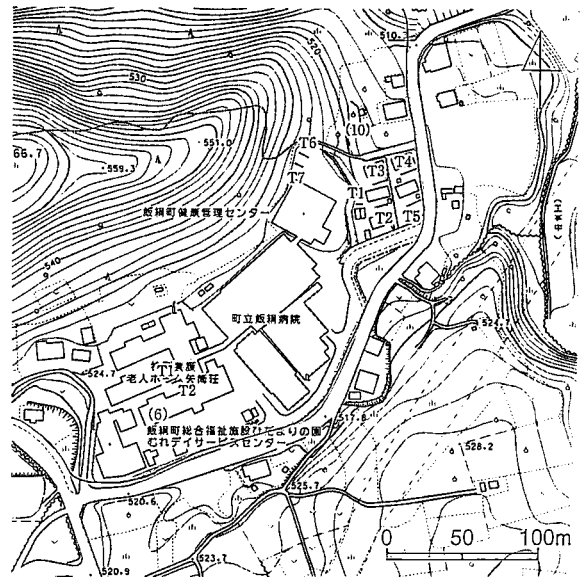


図11 矢筒城館跡の範囲と調査地

7 東前坂遺跡 (図2-7)

A 概要

所在地 飯網町大字牟礼字東前坂612-2

原因 個人住宅建設

調査方法 試掘調査

調査面積 16㎡

調査日 平成26年4月2日

出土遺物・遺構 なし

B 調査の経緯と遺跡の環境 (図12)

東前坂遺跡(64)内に立地する個人住宅の改築が計画され、事前調査を実施した。かつて実施された詳細分布調査では、調査地東方で土師器等の遺物が採集されていたため、調査地東端部分と、斜面上部で盛土が少ないと予想

される南端部分にトレンチを設定した。

C 調査結果

(1) 調査の概要

詳細分布調査で遺物が採集されていた地点に近い東側に、縦横2本のトレンチを設けた。はじめに、建設予定地東端に近接した位置に長さ6.7m、幅1mの規模のトレンチ1 (T1) を南北方向に設定した。重機を主体として、表層より順次削平していった。層序はI層表土(耕作土:建築時の整備等の影響を受けている部分も含む)、II層黒褐色土層、III層褐色シルト層となる。

次に、調査地南端に近い部分に長さ9.3m、幅1mの規模のT2を東西方向に設定した。層序はT1同様であった。

(2) 調査の結果

T1 (写真20) I層(表土)(40~45cm)、II層(黒褐色土層)(20~25cm)、III層(黄褐色シルト層)となる。I、II層中に遺構・遺物は検出できなかった。また、III層表面も精査したが遺構は検出できなかった。以下、確認のためIII層上部を一部削平したが遺物は出土しなかった。

T2 (写真19) I層(表土)(40~45cm)、II層(黒褐色土層)(20~25cm)、III層(黄褐色シルト層)となる。I、II層中に遺構・遺物は検出できなかった。また、III層表面も精査したが遺構は検出できなかった。以下、確認のためIII層上部を一部削平したが遺物は出土しなかった。

調査地は北下がりの緩斜面で、敷地北側はコンクリート壁で囲まれて隣地より40cmほど高くなっている。試掘に先立って、敷地内の表面採集を実施したが遺物は発見できなかった。のべ16㎡になる2本のトレンチからの出土遺物も皆無であった。また、遺構も検出できなかった。

両トレンチの位置は、調査を予定した範囲の状況をほぼ確認できるところに設けており、北および西側の調査が及んでいない範囲においても同様な状況であると推測される。このため、本発掘調査の必要はないと判断し調査を終了した。

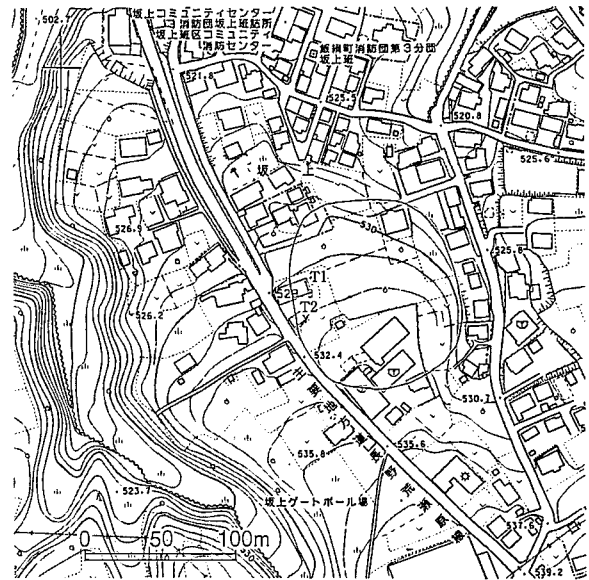


図12 東前坂遺跡の範囲と調査地

8 上赤塩地区遺跡確認調査(図2-8)

A 概要

所在地 飯綱町大字赤塩字柳原6571-4ほか

原因 県道改良

調査方法 確認調査

調査面積 14㎡

調査日 平成26年4月22日

出土遺物・遺構 なし

B 調査の経緯と遺跡の環境

県道東柏原赤塩線の交通安全対策工事(歩道設置)の計画に伴い、県建設事務所と協議し事前に用地内の埋蔵文化財の確認調査を実施した。当該地内に遺跡は確認されていないが、斑尾川沿いの丘陵先端部に位置しており、縄文時代の遺跡が立地するには適当な場所であること、また、寺浦西遺跡(176)、毛見遺跡(164)など周辺に遺跡が立地しているため実施したものである。

C 調査結果

(1) 調査の概要 (図13)

調査地内に、道路に平行して3本のトレンチを設けた。トレンチ1 (T1) は、長さ3m、幅2.1mの規模である。トレンチ2 (T2) は、道路東の果樹園に伸びる農道を挟んで設けた。長さ4m、幅1.1mの規模である。T1の10mほど南に位置する。トレンチ3 (T3) は、T2の30mほど南の平坦面に設けた。長さ3m、幅1.1mの規模である。各トレンチ共に、重機を主体として表土層より順次削平し、遺構・遺物の検出につとめた。

(2) 調査の結果

T1 (写真21) I層 (表土層) (30cm)、II層 (黒色土層) (35~40cm)、III層 (茶褐色土層) (75~80cm) がかなり厚く堆積していた。削平中に遺物の出土は確認できなかった。また、IV層 (黄褐色粘質土層) (15cm以上) の表面を精査したが落ち込みは検出できなかった。

T2 (写真22) T1で確認された表土層と黒色土層は削平されており、III層上に礫まじりの埋土が堆積していた (70cm)。削平も埋土も県道工事に伴ったものと思われる。III層 (30cm)、IIIa層 (茶褐色粘質土層) (35~40cm)、IV層 (30cm)、V層 (青白色粘質土層) (30cm以上) T2においても削平中に遺構・遺物の検出は確認できなかった。また、IV層の表面を精査したが遺構は検出できなかった。

T3 ここは2m削平したが、全体が廃土の盛土であった。

工事に関係する部分に遺跡が存在する可能性は低いと判断し調査を終了した。T1の状況から、遺物が存在した場合、遺物包含層はかなり厚くなる可能性のあることがわかったことも今後の調査の参考になった。また、調査地に設けた3本のトレンチは近接した位置にあったが、それぞれ様相が大きく異なっていた。みかけの地形から旧地形を復元する難しさを感じた試掘でもあった。

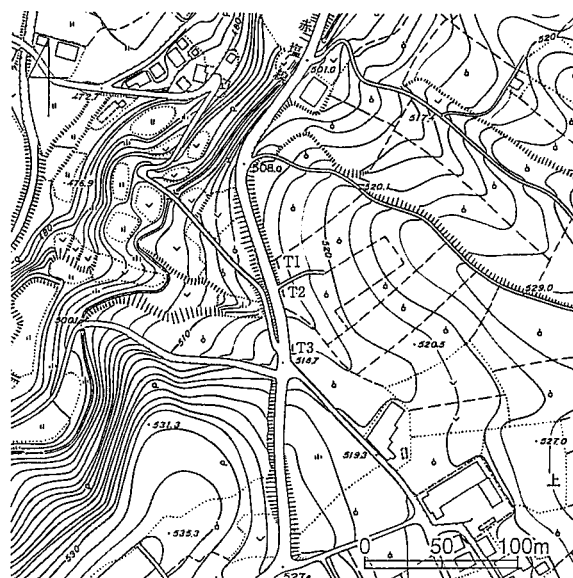


図13 上赤塩地区遺跡確認調査地

9 殿屋敷関連遺跡町田地点 (図2-9)

A 概要

所在地 飯綱町大字黒川字町田1908-1

原因 個人住宅建設

調査方法 試掘調査

調査面積 17.7㎡

調査日 平成27年4月28日

出土遺物・遺構 なし

B 調査の経緯と遺跡の環境 (図14・写真23)

殿屋敷関連遺跡町田地点 (『牟礼村遺跡詳細分布調査報告書』の遺跡番号55) 内に立地する個人住宅の改築に伴い事前調査を実施した。調査地は東下り緩斜面であるが、敷地の東・南・北は深い谷によって切られている。かつて実施された詳細分布調査では遺物は採集されなかったが、守りに適した地形や「家老地」の地名が残ることから、遺跡の北側に位置する殿屋敷遺跡 (54) と関連した中世の遺



図14 殿屋敷関連遺跡町田地点の範囲と調査地

跡の存在が想定されていた地点である。

C 調査結果

(1) 調査の概要

建設予定地内に3本のトレンチを設けた。はじめに、建設予定地西端に長さ4.7m、幅1mの規模のトレンチ1 (T1) を南北方向に設定した。重機を主体として、表層より順次削平していった。層序はI層 表土(耕作土:建築時の整備等の影響を受けている部分も含む)、Ⅲ層黄白色シルト層となる。

つぎに、用地中央に長さ7m、幅1mの規模のトレンチ2 (T2) を南北方向に設定した。層序はT1と同様であった。

3本目は、用地東端に長さ6m、幅1mの規模のトレンチ3 (T3) を南北方向に設定した。層序はI層、II層黄色シルト混じり黒褐色土、Ⅲ層白黄色シルト層となる。

(2) 調査結果

T1 I層(20~40cm)、Ⅲ層黄白色シルト層(10cm以上)となる。遺物は出土しなかった。また、Ⅲ層表面を精査したが遺構は検出できなかった。以下、確認のためⅢ層上部を一部削平したが遺物は出土しなかった。

T2(写真24) 層序はT1と同様で、I層(10~25cm)、Ⅲ層(10cm以上)となる。遺物は出土しなかった。また、Ⅲ層表面を精査したが遺構は検出できなかった。

T3 I層(10~30cm)、II層(黄色シルト混じり黒褐色土)(0~15cm)、Ⅲ層(10cm以上)となる。このトレンチからはI層下に黄色シルト混じり黒褐色土層(II層)が広がるのを確認できた。また、IV層表面に四角な落ち込みがあったので半分掘ってみたところ、陶器片やガラス、ビニールテープ類などが出土したため、戦後のごみ穴と判断した。

試掘に先立って、敷地内の表面採集を実施したが遺物は発見できなかった。調査地は基盤となるⅢ層(ローム層)上の堆積土が薄く(住宅建設時に削平された可能性もあるが)、遺構が構築されたならⅢに及ぶものと考えられる。したがって、その痕跡を検出するのは容易である。しかしながら、のべ17.7㎡になる3本のトレンチから遺構・遺物の検出はできなかった。試掘に先立っておこなった敷地内の表面採集でも遺物は発見できなかった。3本のトレンチの位置は、調査を予定した範囲の状況をほぼ確認できるところに設けており、調査が及んでいない範囲においても同様な状況であると推測される。よって本発掘調査の必要はないと判断し調査を終了した。

後日、『飯網町詳細分布調査報告書』作成のさい、この調査結果や、これまで遺物がまったく採集されてないことなどから「殿屋敷関連遺跡町田地点」は遺跡の指定から除外した。

10 矢筒城館跡(駐車場建設計画)(図2-10)

A 概要

所在地 飯網町大字牟礼字表町2220

原因 駐車場建設計画

調査方法 試掘調査

調査面積 98.2㎡

調査日 平成28年3月16・17日

出土遺物 なし 遺構 掘跡

B 調査の経緯と遺跡の環境

矢筒城館跡遺跡内に立地する町立飯網病院の駐車場整備計画に基づき、事前の試掘調査を実施した。試掘は大きく2地点3か所に分かれる。2か所は現在医師住宅の建つ(上・下の)平地(A地点)、もう1か所は健康管理センター北東隅の平地(B地点)である。以下各所で実施した試掘結果を報告する。

C 調査結果

(1) 調査の概要 (図15)

① 医師住宅敷地 (A地点) (写真25)

はじめに上段 (西側) の医師住宅敷地内に3か所のトレンチを設けた。南側の法面近くに長さ3m、幅0.9mのトレンチを設定した (T1) (写真26)。重機を主体として、表土より順次削平していった (以下各トレンチ同じ)。トレンチ1に続ける形でトレンチ2 (T2) をおよそ東西方向に設定した。長さ7.3m、幅1mの規模になる。トレンチ2に平行する形で北14mほどの所にトレンチ3 (T3) を設定した。長さ9.7m、幅0.9mの規模になる

下段 (東側) の医師住宅敷地内にも、並行した2本のトレンチを設けた (北側のトレンチをT4とした。T4は長さ12.5m、幅0.9mの規模でおよそ東西方向に設定した。T4の南側にトレンチ5 (T5) を設定した。およそ東西方向に長さ8m、幅0.9mの規模となる。端から確認を進めたが、途中水道管を囲む砂利層にあたり方向を南にずらしている。

② 健康管理センター駐車場北東隅 (B地点) (写真29)

調査箇所は、1986年に飯綱健康管理センターの建設に伴う発掘調査 (牟礼村教委1988) で確認された空堀跡と位置的に重なると想定された。空堀は調査後大部分壊されていたが、深さが3.5mほどあり堀の底近くは遺存している可能性があった。このため、駐車場の舗装拡張を予定した個所に2か所のトレンチ (T6・T7) を設けた

(2) 調査結果

① 医師住宅敷地 (A地点)

T1 表土をひとかきすると赤みをおびた砂礫層となった。この層はいわゆるローム層より下位の層と判断し、深部への掘り下げを中止した。I層 (盛土層) (10~15cm)、V層 (砂礫層) (20cm以上) となる (T3で砂礫層はローム層下に広がることを確認できた。これをV層とする。)

検出遺物・遺構 なし

T2 (写真28) この地点も1かきするとV層になる。トレンチの西から東まで大きな起伏 (傾斜) がなく盛土下にV層が広がる。I層 (10~12cm)、V層 (30cm以上)

検出遺物・遺構 なし

T3 ここは西側が大きく削平されて盛土直下に砂礫層が広がるが、東端にかけて黒色土以下、元の層序を確認できた (東向きの傾斜面であるため、位置によって各層の厚さが不定)。I層 (40~170cm)、II層 (黒色土層) (20~50cm)、III層 (茶褐色土層) (15cm前後)、IV層 (ローム層) (15cm前後)、V層 (砂礫層) (40cm以上)、VI層 (青

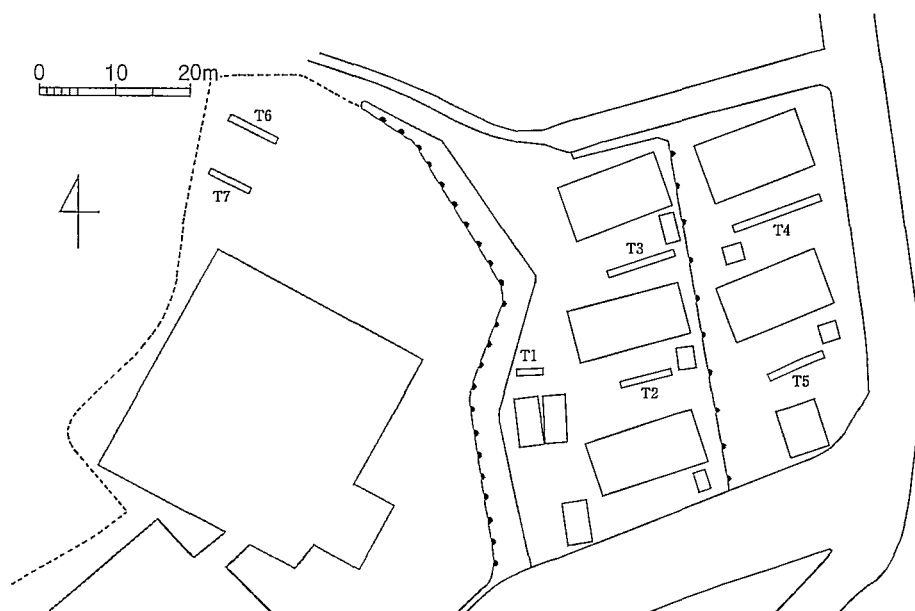


図15 矢筒城館跡 (駐車場計画地点) トレンチ位置図

白色シルト層) (10cm以上) となる。

検出遺物・遺構 なし

T4 (写真27) この地点は盛土層が厚く (50~115cm)、その下からは赤みをおびたシルト層 (15~25cm) を検出した。その下には青白色シルト層 (VI層) (20cm以上) が広がる。VI層上の赤みをおびたシルト層は他のトレンチの状況をふまえて、V層 (砂礫層) 下部の様相を示しているものと思われる。トレンチ4地点は上部層が大きく削平されている。

検出遺物・遺構 なし

T5 この地点も厚い盛土に覆われていたが、下部にIV層、V層が確認できた。やはり上層部は削平されたものと思われる。盛土とIV層の間に炭層の広がりが見られるが、中に新しいゴミ (銀紙等) が含まれており、整地後に火を燃した痕跡と思われる。

I層 (20~100cm)、炭層5cm前後、IV層 (15cm前後)、V層 (25cm以上) となる。

検出遺物・遺構 なし

② 健康管理センター駐車場北東隅 (B地点) (写真29)

T6 (写真30) およそ南北方向に長さ6m、幅0.9mのトレンチを設定した。角礫を多く含む整地層 (盛土層: I層) の下部は直にローム層となっていた。このローム層も上部は削平されているようである。I層 (15cm前後)、V層 (10cm以上)

検出遺物・遺構 なし

T7 (写真30) およそ南北方向に長さ5.7m、幅1mのトレンチを設定した。T6と同様に、角礫を多く含む整地層 (盛土層) の下部は直にローム層となっていた。このローム層も上部は削平されているようである。I層 (20cm前後)、V層 (20cm以上) となる。

T7では北の端に、ぎっしり礫のつまった黒色土層の落ち込みを検出した (図16・写真31)。1986年の調査で確認された堀の状況と似ており、堀の底に近い部分の遺構と思われる。

検出遺物・遺構 堀 出土遺物なし。

(3) まとめ

A地点は、住宅建設に伴う整地により広い範囲で旧地形が削平されていた。このため、遺構・遺物の検出はできなかった。ただ、T3の南側とT5の南側に、厚い盛土の下にある旧地形の層序を確認できた (T5は黒土層が削平されている)。状況から、T3からT5にかけて南東方向に傾斜する凹地があったことが想定される。1986年調査時の報告書に掲載された地形図には、医師住宅敷地南東隅に水田記号があり、おそらくこれと関係した凹地と思われる。工事は遺跡に大きな影響を与えないと判断し調査を終了した。

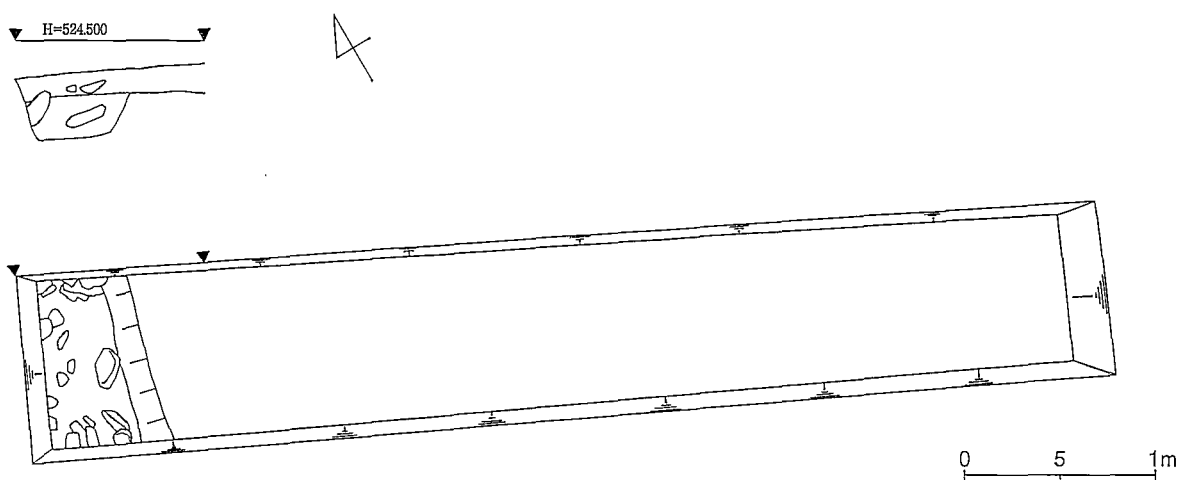


図16 矢筒城館跡 (駐車場計画地点) トレンチ7遺構図

B地点は、健康管理センター建設時に堀跡等が削平されていたが、T7で堀の底と思われる部分と柱穴を思わせる落ち込みを検出した。遺構面は20cm前後の盛土直下にあり、駐車場整備の際は発掘調査が必要と判断し調査を終了した（28年度に当該地で発掘調査を実施したことを付記しておく）。

関係する主な文献

- 清水勝治ほか 1960 『中郷村史』
- 牟礼村教委 1980 『矢筒城館跡』
- 矢野 恒雄 1986 「矢筒城と居館跡」『信濃』438
- 矢野 恒雄 1988 「矢筒城」『信州の山城』郷土出版社
- 牟礼村教委 1988 『矢筒城館跡（第2次調査）』
- 小柳 義男 1997 「牟礼村のあけぼの」『長野県牟礼村誌上』牟礼村
- 三島 正之 1999 「信越国境（牟礼盆地）の防備－矢筒城・髻山城をめぐる」
『中世城郭研究』第13号
- 牟礼村教委 2000 『牟礼村遺跡詳細分布調査報告書』
- 中野 亮一 2009 『長野荒瀬原線（四ツ屋バイパス）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
西四ツ屋遺跡 表町遺跡』長野県埋蔵文化財センター
- 横山かよ子 2011 『矢筒城館跡VI』飯綱町教委
- 笹澤浩・原田勝美ほか 2014 『表町遺跡』飯綱町教委
- 小柳 義男 2015 『薬師堂遺跡』飯綱町教委
- 飯綱町教委 2016 『飯綱町遺跡詳細分布調査報告書』



写真1 横道地区遺跡確認調査 C地点



写真2 横道地区遺跡確認調査 A地点

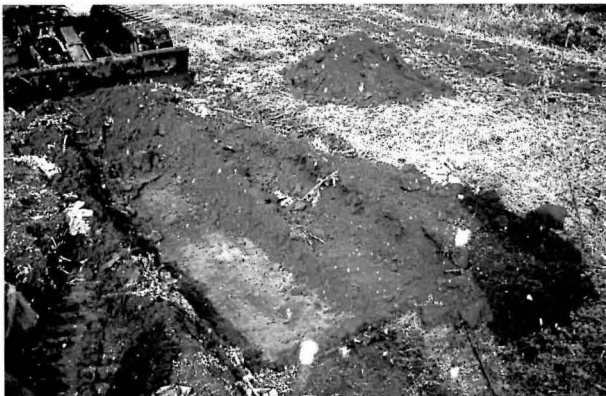


写真3 横道地区遺跡確認調査 B地点



写真4 表町遺跡（工場建設計画地）全景



写真5 表町遺跡 T1



写真6 表町遺跡 T5



写真7 表町遺跡 T3



写真8 表町遺跡 T8 土坑（東側）検出状況



写真9 表町遺跡 T8 土坑出土遺物



写真10 表町遺跡 (水道管敷設工事)



写真11 庚申塔遺跡 (1次調査)



写真12 庚申塔遺跡 T1



写真13 庚申塔遺跡 (2次調査)

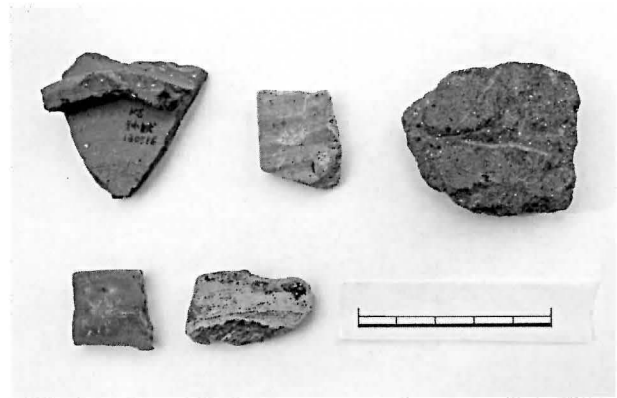


写真14 庚申塔遺跡出土遺物



写真15 表町遺跡 (道路改良地点) 全景



写真16 同 井戸状遺構検出状況



写真17 矢筒城館跡 (特養増設計画地点)



写真18 同 T1



写真19 東前坂遺跡 T2



写真20 東前坂遺跡 T1



写真21 上赤塩地区遺跡確認調査 T1



写真22 上赤塩地区遺跡確認調査 T2



写真23 殿屋敷関連遺跡町田地点全景



写真24 町田地点調査のようす (左 T2-右 T3)



写真25 矢筒城館跡（駐車場建設計画地）A地点



写真27 A地点 T4



写真26 A地点 調査のようす (T1)



写真28 A地点 T2



写真29 矢筒城館跡（駐車場建設計画地）B地点



写真30 B地点 調査のようす (左 T6、右 T7)



写真31 B地点 T7 北隅で検出した堀跡

報 告 書 抄 録

書 名	平成24～27年度町内遺跡発掘調査報告書					
副 書 名						
シリーズ名						
編 著 者 名	小柳義男					
編 集 機 関	飯網町教育委員会					
所 在 地	〒389-1293 長野県上水内郡飯網町大字牟礼2795-1 TEL 026-253-2511					
発 行 年 月 日	平成29年 (2017) 3月25日					
所収遺跡名	所 在 地	コ ー ド		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
おもてまちいせき 表町遺跡	<small>ながの けんかみみの ちぐんいづなまちおおあざ</small> 長野県上水内郡飯網町大字 牟礼2001-1外	20590	62	平成25年 4月3日～10日	165㎡	工場建設計画
やつしょうやかたあと 矢筒城館跡	<small>ながの けんかみみの ちぐんいづなまちおおあざ</small> 長野県上水内郡飯網町大字 牟礼2220	20590	60	平成28年 3月16・17日	98.2㎡	駐車場建設計画
所収遺跡名	種 別	主な時代		主な遺構	主な遺物	
表町遺跡	集落	中世		土坑2	内耳土器	
矢筒城館跡	城館	中世		堀	なし	

平成24～27年度町内遺跡発掘調査報告書

発行日 平成29年 3月25日

発 行 飯網町教育委員会
上水内郡飯網町大字牟礼2795-1

印 刷 信毎書籍印刷株式会社
〒381-0037 長野市西和田1-30-3